

昨日までの常識を覆す挑戦をする

当たり前のことを丁寧にする

東洋機器工業 株式会社



東洋機器工業 株式会社

代表取締役：藏本 武彦 氏

本 社：大阪市西淀川区千舟1-4-23

創 業：1930年（昭和5年）

従業員数：90名

事業内容：コンベヤ搬送システム、
ロボットシステムの製造

URL：http://www.toyokiki.com/



本社外観

1930年創業の東洋機器工業株式会社は、塗装事業からコンベヤの設計、製作への主力事業の転換を経て現在に至ります。東洋機器工業の強みである自社で設計、製作を行うことで、お客様のニーズに合った搬送+αのシステムを提供し続けています。今回は代表取締役の藏本武彦氏にお話を伺いました。

ー 塗装事業から

コンベヤ製作事業への転換

当社は 1930 年に大田自動車工場という板金部品の塗装を専門に行うメーカーとして創業、当時は制御盤や自動車部品等、あらゆる板金塗装を行っておりました。もちろんその仕事には誇りを持って携わっていたのですが、当時、塗装というのが最終工程に近いこともあり納期がタイト、かつ金額的にも非常に厳しいという現実を突きつけられていました。その問題をどうにかできないか頭を悩ませた結果、塗装の上流工程にまで足を踏み入れるべきでは、と考え「何かモノづくりをしたい」という先代社長の強い思いもあり、製造にも携わるよう方針転換を行いました。当時取引しておりましたコンベヤメーカーに相談し、部品製作の一部を担当させていただくことになったのを契機に、当社の部品製作技術を認めていただき継続的に部品製作の仕事を頂戴するようになりました。

部品製作の仕事が軌道に乗ると、企画・設計も含めて一からコンベヤの製作を手がけるようになりました。仕事は徐々に増える一方、一から生産となると部品点数が非常に多くなり、工場が手狭になってしまうという新た

な課題が見えてきました。工場をどうしようかと悩んでいたところ、ちょうど姫路に空き工場があるという話を耳にしました。立地が遠方ゆえに大変躊躇しましたが、お客先より進出すべきとの提言をいただいたこともあり工場の購入を決断、それが今では大阪に3拠点、姫路に4拠点の工場を構えるようになりました。



姫路工場

ー ワンストップ

ソリューションを強みに

当社の強みは、計画段階から機械および制御の設計、製作、現地工事、そして保守に至るまでの全てを提供できる組織力です。そのため、全てを自社で担い責任の所在を明確化することで、高品質で安心できるものづくりを実現しております。

当社の製品には既製品はなく、完全受注生産でお客様に満足していただける製品を一から設計・製作を行い

「搬送+α」ロボットと融合したシステム

同社では 20 年前からロボットシステムの製作を行っている。人間が重くて持てない物も簡単に持ち上げ、思いのままに動かせることに同社代表の藏本氏が感動し事業をスタート。

昨今、人手不足で悩まれている各企業の製造現場における自動化のニーズに対応し、これまで培ってきた搬送システムの技術とロボット技術を融合したロボットシステムを提案できることが強みである。

インターネット通販に代表される物流業界の大きな変化の中、搬送システムやコンベヤの需要は過去最大のものとなっており、同社への期待は年々増加している。

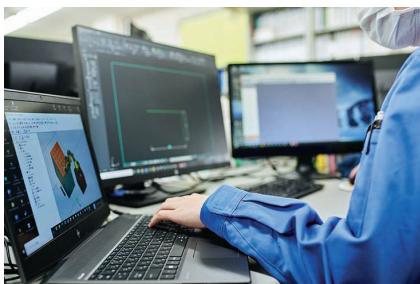


提供しております。

また電気制御においてはお客様の使いやすいインターフェースを考えています。そして設置した機械を長くご利用いただくために、納品後も定期的メンテナンスを行い、急なトラブルにも即応可能な体制を整えております。

かつては OEM 製品が主体で製品を現地まで配送して終わりでしたが、今では独自製品を製作しているため、現地工事、試運転まですべて担いお客様にご納得いただける製品を提供しています。

ここまで来るのには大きな課題がございました。というのも当時は電気の知識がある社員が 1 人もいなかったのです。そのため、しばらくは外部業者に委託しながら少しずつ人材育成を始めました。



まず 1 人のベテランを核とし、時間をかけて徐々に人数を増やしていき、現在は 6 人で電気部門を担うことが

できています。そのように組織強化を進めた結果、今では複数のオーダーを平行して行うことができるまでにになりました。

—新しい世代に繋げる

我々の搬送システムは周りの機械と接続して作動するため、コンベヤの知識だけではなく、様々な機械の知識やその動作環境についても総合的に理解する必要があります。この点が入社間もない社員にはなかなか難しく、入社後は先輩から搬送システムの仕組み、電気制御の知識等を幅広く一から学んでいます。しかし先輩が教えるだけでは偏りや間違いがある可能性もありますので、外部の研修にも積極的に参加させております。現在はありがたいことに、20 代の若手社員が活躍してくれています。若い人材を常に求めています。若い人材を活かすためには教える側の人材も育成していかなければなりません。この土壌を作るのには 10 年近くかかりました。

自動化のニーズは、今後の少子高齢化や更なる効率化を考慮すれば増加の一途をたどっていき、そこに搬送+αのシステムが必ず必要になるでしょう。当社がお客様に支持され今後も継続的に成長していくためには、未

来を担う若手社員の成長を促すことはもちろん、何にでも果敢に挑戦する風土づくりが必要と考えます。

—東洋機器工業のこれから

我々は挑戦する技術者集団です。で、「できない」「無理」は言わないようにしています。その言葉は挑戦者として負けだと思っているからです。今まで取り組んだことのない問題に直面しても社員一丸となり意見を出し合い果敢に挑戦を続けております。難しい注文ほど技術者として気合いが入るものです。



ものづくり企業としてこれからも、培ってきた実績やノウハウに加え、新たなものを生み出す発想力で、お客様のニーズに応える搬送+αのシステムを提供し続けていきます。

—貴重なお話をいただき、ありがとうございました。